

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名	学力向上対策推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	なし	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 <input type="text" value="28"/> 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)		学校教育			
施策	3	義務教育の充実			
基本事業	1	学力向上の推進			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内小中学生及びその保護者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	学校と家庭が連携し、基本的な生活習慣や学習習慣の育成を図り、確かな学力の向上と定着を目指す。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	鳴門教育大学教員や小中学校の代表校長、各教科部会の代表教員を委員とした「鳴門市学力向上推進委員会」において、具体的な学力向上施策の検討を進める。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		学力向上推進施策の実施	①Q-Uアンケートの実施 ②学力向上推進委員会の開催 ③各学校への新聞の配備 ④数学オリンピックの開催	①Q-Uアンケートの実施 ②学力向上推進委員会の開催 ③各学校への新聞の配備 ④理数オリンピックの開催	①Q-Uアンケートの実施 ②学力向上推進委員会の開催 ③各学校への新聞の配備 ④理数オリンピックの開催	-	-	

◎実施結果(DO)

事業実施内容	は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	鳴門教育大学教員や小中学校の代表校長、各教科部会の代表教員を委員とした「鳴門市学力向上推進委員会」において、学力向上施策の検討を進めた。 また、各学校に新聞を配備した他、数学に対する興味や意欲を伸ばし、数学好きの生徒を増やすことを目的として、平成29年に実施した数学オリンピックを理数オリンピックとして拡大させ、鳴門教育大学の協力のもと開催した。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標	1						
活動指標	2						
成果指標	学力向上推進施策の実施	①Q-Uアンケートの実施 ②学力向上推進委員会の開催 ③各学校への新聞の配備 ④数学オリンピックの開催	①Q-Uアンケートの実施 ②学力向上推進委員会の開催 ③各学校への新聞の配備 ④理数オリンピックの開催	-	-	-	
	目標達成率(実績/目標)	100.0		-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	平成30年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	100	2,419	2,519	
		補正予算額	0	0	0	0	0	0	
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0	
		全体予算額	0	0	0	100	2,419	2,519	
		決算額	0	0	0	39	2,283	2,322	
		繰越額	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)	総人件費		総事業費			
	0.2	0.0	1,464	3,786					

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	1,161	2,322	2,578	2,578	2,578
	うち一般財源	1,161	2,283	2,578	2,578	2,578
	人件費	1,447	1,464	1,464	1,464	1,464
	総事業費	2,608	3,786	4,042	4,042	4,042

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	全市的な学力向上施策について、2回開催した推進委員会の中で検討を進めた。
	効率性	B:概ね効率的だった	推進委員会で取り組みについて検討を進め、実践事例集の作成、保護者向けリーフレットの作成、配布を行った。
②成果に対する評価	指標名	学力向上推進施策の実施	目標を達成することができたため、A評価とした。
	目標	①Q-Uアンケートの実施、②学力向上推進委員会の開催、③各学校への新聞の配備、④理数オリンピックの開催	
	実績	①Q-Uアンケートの実施、②学力向上推進委員会の開催、③各学校への新聞の配備、④理数オリンピックの開催	
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	上記①、②を踏まえA評価とした。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	鳴門市学力向上推進委員会において、各学校と連携して情報収集や調査結果の分析を行うとともに、具体的な対策について研究を進め、全市一体となった取組を進める。また、学力の定着には学校での学習以外に、家庭での過ごし方も深く関係しており、どのようにして家庭での生活習慣や学習習慣を身につけるかが課題である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	鳴門市学力向上推進委員会において、各学校と連携して情報収集や調査結果の分析を行うとともに、具体的な対策について更なる研究を進め、全市一体となった取組を進める。また、家庭と連携し、基本的な生活習慣と学習習慣の育成を図る。			
	R2年度	継続実施			